

2003 年度 委員会活動成果報告

(2 0 0 4 年 3 月 2 6 日 作 成)

委員会名	材料・構造耐火性小委員会	主 査 名：長尾 覚博
所属本委員会 (所属運営委員会)	防火本委員会	委員長名：長谷見 雄二
設 置 期 間	2 0 0 1 年 4 月 ~ 2 0 0 5 年 3 月	
設 置 目 的 各年度活動計画	<p>設置目的：改正建築基準法の性能規定化に伴い、適用可能な構造材料および構造形式の種類が拡大出来る可能性が増加した。それらの要求性能に適合する性能設計に活用出来る構造材料の火災時における高温性状の定式化を提案する。</p> <p>活動計画： 2 0 0 1 年度：各種構造材料の火災時を想定した高温性状に関する文献調査およびデータの収集 2 0 0 2 年度：各種構造材料の火災時を想定した高温性状の定式化の検討 2 0 0 3 年度：各種構造材料の火災時を想定した高温性状の定式化の提案 2 0 0 4 年度：提案成果をとりまとめ学会刊行物ならびに講習会にて公表</p>	
委員構成 (委員名(所属))	<p>主査：長尾 覚博 [(株)大林組 技術研究所] 幹事：岡村 義徳 [(財)日本建築総合試験所 建築物理部] コンクリート材料WG主査：一瀬 賢一 [(株)大林組 技術研究所] " 幹事：梶田 秀幸 [前田建設工業(株) 技術研究所] 鋼材料WG主査：平島 岳夫 [千葉大学 工学部] " 幹事：西田 浩和 [(株)フジタ 技術センター] 木質系材料WG主査：大内 富夫 [鹿島建設(株) 技術研究所] " 幹事：梅本 宗宏 [戸田建設(株) 技術研究所] アルミニウム材料WG主査：染谷 朝幸 [(株)日建設計 東京本社] " 幹事：浦川 和也 [佐藤工業(株) 中央技術研究所] 新材料WG主査：道越 真太郎 [大成建設(株) 技術センター] " 幹事：西浦 範昭 [西松建設(株) 技術研究所] 岡 義則 [化工機商事(株)] 西田 朗 [清水建設(株) 技術研究所] 森田 武 [清水建設(株) 技術研究所]</p>	
設置WG (WG名：目的)	<p>以下の5WGで構成し、構造材料種別毎にデータの収集および火災時を想定した高温性状の定式化の検討・提案をおこなうことを目的とする。</p> <p>コンクリート材料WG 鋼材料WG 木質系材料WG アルミニウム材料WG 新材料WG</p>	
2003年度予算	1 3 5、0 0 0 円	

項 目	自己評価
委員会活動状況 (開催日・参加人数)	<p>以下に小委員会の状況を示す(傘下の5WGについては割愛する)</p> <p>2003年</p> <p>5月30日(金)...11名</p> <p>8月29日(金)...9名</p> <p>10月31日(金)...8名</p> <p>12月19日(金)...8名</p> <p>2004年</p> <p>1月21日(水)...5名</p>
得られた成果	<p>(成果の具体的内容、成果の学術的・技術的・社会的価値、ホームページ等での公開の有無)</p> <p>成果：各種構造材料(コンクリート、鋼、木質系、アルミニウム、新材料)の火災時における高温性状のデータの取り纏めと定式化の提案。 特に、各種構造材料の火災時における性状の系統的なデータベース化と定式化は新規性の高い成果である。</p> <p>成果の価値：従来系統的に整理されていなかった、各種構造材料の火災時における性状のデータベース化と、定式化は耐火性能設計を発展させる上で多大な貢献が期待され、学術的・技術的・社会的価値は高い・</p> <p>成果の公開：成果の一部は建築学会2004年度大会において発表予定。学会ホームページにて、活動内容、成果を公表する。</p>
目標の達成度	<p>(当初の活動計画と得られた成果との関係)</p> <p>得られた成果は当初の活動計画の予定通りである。</p>
その他評価すべき事項	<p>各種構造材料種別毎に設置した5WGの活動と、小委員会での活動(全体取り纏め等)との連携が非常に良好であった。</p>